


令和7年度文化芸術の力を活用した地域のにぎわい創出事業実績報告

事業実施団体：一般社団法人松島分校美術館

事業の概要

事業名	松島分校美術館 A. I. R プロジェクト 「境界のポリフォニー ～瀬戸内海との対話～」
委託費の契約額	2,000,000 円
総入場者数	430 名 (内訳) ・松島分校美術館 延べ 230 名 ・小学校特別授業 200 名
事業全体の概要	<p>本事業は松島分校美術館を舞台に、2名のアーティストが滞在制作しながら地域と連携した様々な事業を実施し、地域連携事業も積極的に開催した。</p> <p>【松島分校美術館】</p> <p>本事業のメイン会場となる松島分校美術館は、倉敷市下津井沖に浮かぶ瀬戸内最小の離島である松島にある。かつて小中学校の分校として使われていた校舎をリノベーションすることで誕生した。滞在制作とワークショップに特化した施設であり、運営は地域住民で構成された非営利型の一般社団法人が管理運営している。</p> <div data-bbox="517 1464 1422 1693"></div> <p>【AIR 事業①中桐聡美（版画）】</p> <p>中桐聡美は、慣れ親しんだイメージをシルクスクリーンで複数枚刷り、カッティング、ステイニングというプロセスを通して、「移ろい」を表現するアーティストである。現在、京都市立芸術大学大学院博士課程に在籍し、I 氏賞奨励賞を受賞するなど注目が集まっている。本事業においては延べ 60 日の滞在制作を行い、成果</p>

	<p>発表としての展覧会を開催。また地域小学校での特別授業を実施した。</p> <p>【AIR 事業②Chiaki Y. Lhaden (現代アート)】</p> <p>Chiaki Y. Lhaden は関東から岡山に移住し何度も松島分校美術館に訪れている。本事業においては瀬戸内海の多島海としての特性とヒマラヤの王国ブータンという二つの「周縁」を重ね合わせることで、グローバル化の中で均質化していく世界に対して、地域固有の文化や歴史、自然の価値を再発見・再評価する機会を創出した。延べ50日滞在し、成果発表として「円環の食卓」を開催。また地域小学校での特別授業を実施した。</p> <p>【地域連携事業】</p> <p>滞在期間中にはアーティストトーク、イベント、近隣小学校と連携した特別授業を実施するなど地域社会との連携を図ることができた。</p> <p>■ イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けワークショップ「松島しょくぶつラボ」：8/11-12 ・「円環の食卓」ワークショップ：8/23-24 ・アーティストトーク：10/12/中桐 ・近隣小学校での特別授業：1/13-14/中桐 ・近隣小学校での特別授業：1/28/山本 ・制作作品の展示発表（倉敷市立短期大学、鷲羽山ビジターセンターなど）
--	--

事業内容（1）

事業名（個別にあれば記入）	アーティストインレジデンス/中桐聡美
参加アーティスト	中桐聡美
事業の内容 ※別紙でも可	<p>中桐聡美は、慣れ親しんだイメージをシルクスクリーンで複数枚刷り、カッティング、ステイニングというプロセスを通して、「移ろい」を表現するアーティストである。現在、京都市立芸術大学大学院博士課程に在籍し、I 氏賞奨励賞を受賞するなど注目が集まっている。本事業においては延べ60日の滞在制作を行い、成果発表としての展覧会を開催。また地域小学校での特別授業を実施</p>

した。



滞在制作の様子



展示の様子



展示の様子



成果報告展の様子



作品解説・トークの様子

開催期間	令和7年8月1日～10月31日
開催場所	松島分校美術館
入場者等	100名

事業内容（2）

事業名(個別にあれば記入)	アーティストインレジデンス/ChiakiY. Lhaden
参加アーティスト	ChiakiY. Lhaden
事業の内容 ※別紙でも可	<p>Chiaki Y. Lhaden は関東から岡山に移住し何度も松島分校美術館に訪れている。本事業においては瀬戸内海の多島海としての特性とヒマラヤの王国ブータンという二つの「周縁」を重ね合わせることで、グローバル化の中で均質化していく世界に対して、地域固有の文化や歴史、自然の価値を再発見・再評価する機会を創出した。延べ50日滞在し、成果発表として「円環の食卓」を開催。また地域小学校での特別授業を実施した。</p> 

	
開催期間	令和7年7月1日～8月24日
開催場所	松島分校美術館
入場者等	50名

事業内容（3）

事業名（個別にあれば記入）	Chiaki Y. Lhaden 「円環の食卓」
参加アーティスト	ChiakiY. Lhaden
事業の内容 ※別紙でも可	<p>【コンセプト】 アジアの伝統的コミュニティの根幹である「共食」の価値を現代に蘇らせるワークショップ。</p> <p>【実施内容】</p> <p>①映画上映会（1時間）：「お坊さまと鉄砲」（2023）というブータンの選挙導入に関する映画。ブータンとアメリカという不思議な対比の中でブータンの素朴な価値観がユーモアを持って描かれており、現代の民主主義や幸せとは何なのか？と考えさせる作品</p> <p>②共食体験（1.5時間）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が円形に座り、一つの大鍋からブータン料理を共に食べる体験型イベント ・アーティストによるパフォーマンス的な語りとブータンの記憶の共有 ・ブータン伝統のお香と音楽による五感を刺激する空間演出 ・参加者には特製 ZINE（冊子）を配布し、アーティストの写真とテキストで体験を補完

【特徴】

単なる料理教室ではなく、食を通じた記憶と文化の伝達、コミュニティ形成の実践として位置づける。実際の食体験を通じて、異文化理解と地域の再認識を促す場となる。



映画上映・トーク



開催期間

令和7年8月23～24日

開催場所

松島分校美術館

入場者等


50名


事業内容（４）

<p>事業名（個別にあれば記入）</p>	<p>滞在アーティスト学校派遣事業</p>
<p>参加アーティスト</p>	<p>中桐聡美、Chiaki Y. Lhaden</p>
<p>事業の内容 ※別紙でも可</p>	<p>松島分校美術館のレジデンスプログラムでは、地域貢献として近隣小学校へ滞在アーティストを派遣し特別授業を行う事業を展開してきた。本事業では、中桐聡美による版画制作、Chiaki Y. Lhaden による異文化理解教育、ブータン料理会を実施した。</p> <div data-bbox="518 539 1024 875">  <p>中桐聡美による版画制作</p> </div> <div data-bbox="518 920 1024 1256">  <p>中桐聡美による版画制作</p> </div> <div data-bbox="518 1301 1024 1637">  <p>中桐聡美による版画制作</p> </div> <div data-bbox="518 1682 1024 2018">  <p>Chiaki Y. Lhaden 交流授業</p> </div>



		Chiaki Y.Lhaden 交流授業
		Chiaki Y.Lhaden 交流授業
開催期間	令和8年1月13・14・28日	
開催場所	倉敷市立緑丘小学校	
入場者等	児童約200名	

事業内容（5）

事業名（個別にあれば記入）	大学生による「松島しょくぶつラボ！」	
参加アーティスト	香川大学学生	
事業の内容 ※別紙でも可	<p>岡山香川に暮らす大学生が中心となり地域の子ども達に向けた自然体験型ワークショップを開催した。参加した子どもたちは自然と遊びながら学び、滞在制作中のアーティストとも交流を深めることができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="517 1491 928 2056">  <p>まっしましょくぶつラボ ボクらは自然の探検隊！</p> <p>イベント日程 8/11(土)・12(日) 10:00～16:00 無料参加可</p> <p>イベントの流れ 1. 会場受付から会場へ 2. 自然観察と採集 3. 採集した植物を乾燥 4. ポスター制作 5. ポスター発表 6. 会場見学にて解散 ※当日とも併記開催です。</p> <p>STEP1 / 植物採集 松島に咲いている植物を採集しよう！</p> <p>STEP2 / ポスター制作 乾燥で採つけた植物を乾燥させてポスターにまどめよう。</p> <p>STEP3 / 発表 ポスターにまどめたものをみんなの前で発表しよう！</p> <p>対象 小学生 参加費 各日1,000円 募集人数 各日15名(先着順) 主催 香川大学 松島プロジェクトRenk 共催 一般社団法人 松島分校美術部</p> <p>香川大学 松島プロジェクトRenk renkatsushima@gmail.com</p> <p>お申込はこちら お問い合わせはこちら</p> </div> <div data-bbox="957 1491 1388 2056">  </div> </div>	

	
開催期間	令和7年8月11・12日
開催場所	松島分校美術館
入場者等	延べ30名

事業内容（6）

事業名（個別にあれば記入）	レジデンス作品の継続展示
参加アーティスト	中桐聡美、ChiakiY. Lhaden
事業の内容 ※別紙でも可	<p>2名の作家が制作した作品は滞在期間中の発表だけでなく、事業後も展示発表を継続する。松島分校美術館ではAIRプログラムのアーカイブとして常に紹介し、地域交流センターでは期間中に来場できなかった県民にアプローチする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>倉敷市立短期大学の展示</p>

	 <p>ビジターセンターカフェの展示</p>
開催期間	擬音ハウス（下津井）（2/1～） 倉敷市立短期大学（2/26～） 鷺羽山ビジターセンター（2/26～） 倉敷市立緑丘小学校（2/26～）
開催場所	倉敷市立短期大学 鷺羽山ビジターセンター 擬音ハウス（下津井） 倉敷市立緑丘小学校
入場者等	ビジターセンターの年間来場数/25,574名 倉敷市立短期大学の学生数/248名 緑丘小学校の児童数/195名

成果・効果

事業全体の成果・効果 ※以下の観点も盛り込むこと <観点> ・地域の魅力向上や発信 ・地域活性化 ・他地域への展開の期待 ・県民に対する文化芸術に触れる機会の提供	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【地域の魅力向上や発信】地域文化資源の再発見と価値化：忘れられつつある瀬戸内海の島々の歴史・文化の掘り起こし それぞれの作家が滞在制作を進める中で、瀬戸内の島の魅力を作品に込め、鑑賞者に伝えることができた。中桐は風景を版画として切り取りながら環境や風土を作品に閉じ込めた。Chiakiはブータンの歴史と島の歴史を重ねながら見つけた「境界」という共通点を見つけることでパフォーマンス作品を完成させた。 2. 【県民に対する文化芸術に触れる機会の提供】各作家との対話を通じた視野の拡大 3. 【他地域への展開の期待】地域アイデンティティの強化：周縁地域としての誇りと可能性の再認識 Chiakiは滞在制作の成果発表として、参加者がブータン料理を囲みながら語り合う場を制作した。幸福度において世界一を誇るブータン国のアイデンティティを通じて、自分の価値観をアートを通じて見つめ直すことができたと言える。 4. 文化観光資源としての魅力向上：独自のアート体験による誘客促進 5. 文化的多様性の保全：均質化に抗う価値観の提示
--	--

<p>地域住民、文化芸術団体、教育・産業関係機関等と連携・協働した取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>松島分校美術館運営の取り組みに関する連携団体</u> 鷺羽山下津井まちづくり推進協議会、倉敷市まちづくり推進課 2. <u>レジデンス、展示発表における連携団体</u> 倉敷芸術科学大学、京都市立芸術大学、児島市民交流センター、緑丘小学校、倉敷市立短期大学、
<p>子どもや若者を対象とした文化芸術に触れる機会を提供するための取組 (対話型鑑賞、ワークショップなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷市立緑丘小学校での派遣授業：1/13-14 中桐、1/28 山本 ・アーティストトーク：10/12 中桐 ・子ども向けワークショップ「松島しょくぶつラボ」：8/11-12
<p>来場者の意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術芸術についてそれほど知識はないのですが、環境も素晴らしく、非日常な体験ができて良かったです。作家の中桐さんの話を聞いて初めて作品の意図が理解できました。 ・映画も食卓も楽しかったです。映像でブータンの文化に触れて、食でも触れることができ、今まで身近に感じていなかったブータンを実感できたような気がしました。

課題・今後の方向性

<p>課題・改善点</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報、情報拡散、集客力 アート系の企画において広報は常に課題となる。近年では SNS フォロワー数が広報力値となるため、当法人においても今後の短期課題として取り組みたい。 2. 来場者数の確保 松島分校美術館は来場者数 50 名程度が集客許容であり、1,000 人規模の企画を目指す場合は複数回に分けて開催する必要がある。日程調整や天候などを配慮すると集客数が限定的になることが課題として挙げられる。本企画ではイベント後に継続的な地域展示を展開することでカバーする方針である。
---------------	--

今後の方向性	<p>本企画「境界のポリフォニー」は、これまでに松島で取り組んできた企画と比較して最もスムーズかつ充実した内容で実施することができた。</p> <p>今後の方向性は活動の収益化である。文化事業は利益を出しにくいという課題に真っ向から取り組みたい。現時点では島固有の資源を活用した染色や陶芸など工芸品の開発に取り組んでおり、下津井地域に開業したショップで展示販売している。今後3年間はその事業に専念する予定だ。</p> <p>一方、海洋資源イベント、子ども向けアート事業、地域交流会、夏の子どもキャンプなど、他団体と連携したイベント事業も計画されている。</p>
---------------	--